

技術の強みや方向性を 客観的に知る機会 これからも 定期的に評価を



あえてハードルの高い技術に挑む

超硬金属はタングステン、コバルトなど世界でも生産量の少ない、いわゆるレアメタル（希少金属）の合金でできています。名前の通り高い硬度を持つ金属であるため、研削加工、さらに仕上げの鏡面加工には熟練の技能が求められます。中でもノザキが優れているのは、1ミクロン単位の公差にも対応できる精密な加工技術を有していることです。

もともと金属の研削加工では定評のある会社として大手電機メーカーなど優良な取引先に恵まれていましたが、ここ10数年、大手メーカーの中国シフトが一気に進んでいったことに危機感を持った同社では、あえてハードルの高い精密加工分野へ仕事を絞り込みました。

ノザキで作られた金型部品は超硬金型メーカーで組み立てられ、自動車や弱電メーカー向けの電子部品となります。仕事の大半は試作品や1個から100個程度までの小ロットばかり。図面通りに短納期のニーズに応えることで自然に取引先は増えていきました。

自社を客観的に知る良い機会に

同社がひょうご中小企業技術・経営力評価制度を利用したのは、朝来市商工会からの紹介がきっかけでした。「ありがたいことに営業担当者を持たずにやって来られたことは、取引先からご評価いただいている証だと思うのですが、自分たちが持っている技術が客観的にどのように評価してもらえるのか率直に知りたいと思いました」と野崎和彦専務。

申し込みの申請書には、自社の技術の内容や新規性、強み、弱みについて書き込む欄があります。「今までは受けた仕事をとにかく図面、納期通りに納めることだけをしてきたので、自社の技術について深く考える良いきっかけになりました」。申請書を書く中で分かった自社の強みは「どんな図面でも形にできること」だったそうです。円筒型の精密超硬金型部品を手掛ける競合が少ない中で評価は非常に高く、

「自社でやってきたことが間違っていないかと安心できました」と話します。

一方で、評価書ではいくつかの指摘を受けました。その1つが、超硬金属の材料となるタングステンやコバルトなどの材料が入手できなくなるリスクに対する備えです。同社では3年ほど前から超硬金属だけでなくスチール、ステンレスなどの鋼、セラミックなど徐々に加工分野を広げつつあるそうです。併せて、かつて売り上げの8割を1社の超硬金型メーカーに依存していた時期がありましたが、現在では3社にバランスよく分散しており、いずれは5%ずつ20社に分散するのが目標だそうです。



職人の手作業に頼る汎用切削機械が並んでいます

同社は評価を取得した後、中小企業支援ネットひょうごの「成長期待企業」にも選ばれました。これは、県内の中小企業支援機関が用意する各種支援メニューを活用して総合的なサポ

ートが受けられるもので、野崎専務は「今後精密機械の設備投資をする際の借り入れなどで評価の結果を生かすことができれば」と言います。
また評価については「自社の方向

性を知る良い機会になりました。変化の速い時代なので、3年を目途に評価をお願いしたいと思っています」とこれからも制度を経営に活用していこうと考えています。

会社概要
有限会社ノザキ

所在地 朝来市和田山町加都129-1
代表取締役社長 野崎周二
事業内容 超硬金型部品の製造

TEL 079-674-2033
FAX 079-674-2237